かけがえのない生態系

私たちの生きている地球の環境は、大気、水、土、太陽光、そして多様な生物の営みによって成り立っています。地球の長い歴史を通じ、生物の働きによって、現在のような大気、森林、川や湖沼、海といった多様な環境がつくられてきました。

その中で、動物、植物、微生物などが、食物連鎖をはじめ様々な物質とエネルギーのやり取りを通して、複雑で微妙な関係とバランスを保って共存しています。

こうした共存の仕組みによって、清浄な大気や水、土が守られ、気候が調節されるなど、生命の星である地球の環境が維持されているのです。

このような多様な生物と、その生息と生育の基盤となる大気、水、土などの自然的構成要素、それらの間の物質やエネルギーのやり取りをあわせて「生態系」と呼びます。

生態系は、環境条件が変わると、それに対応して変化しながら自らを維持する機能があります。しかし、その変化が、生態系の要にある生物種や多数の生物に大きな影響を及ぼしたり、そのシステムのバランスを崩したりすれば、生態系が壊されるおそれがあります。

ひとたび壊されてしまうと、それをもとに戻すことは非常に困難です。

私たちが暮らしの便利さと快適さを求めることで、巨大化・高度化を続ける人間の活動は、生態系にさまざまな影響を及ぼしています。例えば、道路の建設や土地開発は、生物の生息・生育環境を狭め、ある種の生物の急激な減少を引き起こす場合があります。

また、今日の経済活動と私たちの生活は多種多様な化学物質によって支えられていますが、その中には人の健康のみならず生態系に悪影響を及ぼすおそれのあるものが少なくありません。

人間も環境の一部であり、生態系を構成する他の生物との共生なくしては生存することができないことを考えれば、生態系を守ることは、今生きる私たちが取り組むべき課題であり、将来世代に対する責務といえます。